茶摘み体験 SDGs学ぶ

掛川で東海大静岡翔洋高生

茶摘みを体験する生徒たち＝掛川市佐夜鹿

茶商品の開発を通じて持続可能な開発目標（SDGs）を学ぶ東海大静岡翔洋高（静岡市清水区）サタデーセミナーの1年生6人が22日、世界農業遺産「茶草場農法」の実践地掛川市で茶摘み体験をした。環境保全と生産活動を両立する伝統的な知恵に触れ、商品開発に生かす。

同校は生活協同組合パルシステム静岡や掛川市の製茶販売業「山英」と協力し、県産茶を使ったウス茶糖（グリーンティー）風の商品を開発中。生徒がキャッチフレーズやデザインを含めて考案し、SDGsの意義を発信しようと試みている。

茶草場農法は地域に自生するススキなどの草を乾燥、粉砕して茶園に敷く農法。同市佐夜鹿の茶園を訪れた生徒たちは、山英の担当者から茶草が茶木の生育を促すこと、草を刈り取る作業が希少な動植物の保護につながることを学び、優れた栽培環境を体感しながら茶摘みを楽しんだ。

静岡新聞

© 静岡新聞社　無断複製転載を禁じます